

[00:00:00.570] - Noriko

皆さん、日本語の先生のリコです。今日のゲストはノルウェーに住んでいる日本語の先生ケビン先生です。ケビン先生はポッドキャスト、Kevinvin Sleepy Japanese もされています。実は私の生徒さんが「とても面白いポッドキャストだから聴いてみてください」とお勧めしてくれたんですね。その生徒さんのおかげで、ケビン先生のポッドキャストを知ることができました。とても素敵な声の先生です。

[00:00:28.740] - Noriko

歌も歌える先生なんです。たくさんの方に ケビンKevin 先生のポッドキャストを聴いてもらいたいです。ではケビン先生、今日はよろしくお願いします。

[00:00:38.580] - Kevin

よろしくお願いします。

[00:00:40.710] - Noriko

はじめまして。

[00:00:42.330] - Kevin

はじめまして。たむらKevinと申します。

[00:00:45.960] - Noriko

あ、たむらさん？

[00:00:47.260] - Kevin

あ、そうです。

[00:00:48.540] - Noriko

あ、そうか、苗字も公開しちゃったけど・・・

[00:00:50.070] - Kevin

言っちゃいましたけど。

[00:00:52.550] - Noriko

言っちゃいましたね、今。はい。

[00:00:52.550] - Kevin

大丈夫です。大丈夫です。

[00:00:52.550] - Noriko

Kevin先生、あの簡単に自己紹介をお願いします。

[00:00:56.800] - Kevin

あ、はい、ありがとうございます。先ほどおっしゃっていただいたんですけど、ノルウェーに今住んでいます。ハーフでお父さんがノルウェー人で、で、お母さんが日本人です。で、日本の東京で生まれて育ちました。なので母語です。ネイティブは日本語なんですけど、今はノルウェーに住んで、そこで日本語を教えていますね。特にノルウェー人に対して、日本語を教えています。はい。

[00:01:32.910] - Noriko

わかりました、ありがとうございます。あの、ポッドキャストはいつから始められたんですか。

[00:01:39.660] - Kevin  
ポッドキャストは今年の1月からですね。

[00:01:42.930] - Noriko  
あ、そうですか。

[00:01:43.920] - Kevin  
半年くらい。

[00:01:44.550] - Noriko  
うんうん、どうですか。楽しいですよ。

[00:01:48.900] - Kevin  
楽しいですね。やっぱり、あの、僕は先ほどおっしゃった、歌も好きなのでポッドキャストの冒頭、最初のイントロダクションに、歌を歌ったりとかしながら、もちろん声も、話すことって、何でも話すことがね、日本語の勉強になるので、好きなことを話せるし。

[00:02:12.510] - Noriko  
そうですね。

[00:02:13.740] - Noriko  
すごく楽しいです。

[00:02:16.500] - Noriko  
はい、あの、今日はですね、私はまだ全部のエピソードを聞いてないんですが、いくつかのケビン先生のエピソードを聞いてみたんですね。すごく面白い質問というか、トピック、「ハーフ」について、まずはちょっといろいろお聞きしたいと思っていて。これ、たぶんね、興味がある人がたくさんいると思うんですね。そのケビンさん自身が、先生自身が、ハーフってということで、最初の質問は、「ハーフ」という言葉は実はどうなんですかね。Kevin先生にとって。

[00:02:47.370] - Kevin  
そうですね。もちろん「ハーフ」という言葉は、英語のHalfだから、cut in half、ですよ、だから、この言い方がすごく良くないと言われて

[00:03:00.090] - Noriko  
言われてますよね。うんうん。

[00:03:03.360] - Kevin  
そうですね。特に、そうです、日本語でしっかり、ちゃんと、公式に、オフィシャルに言いたいときは、あの「国際児」、

[00:03:10.390] - Noriko  
「国際児」はい。

[00:03:11.220] - Kevin

そうですね、international childrenとか。あとは「ダブル」とか、そういうふうな言い方もありますね。

[00:03:18.300] - Noriko  
「ダブル」も最近聞きますね、よく。

[00:03:21.720] - Kevin  
そうですね。ダブルの方が、ま、両方ありますよということだから。両方のバックグラウンド、だから、いいですよという人も多いですけど。

[00:03:32.230] - Noriko  
はい

[00:03:33.210] - Kevin  
ハーフという言葉に慣れ、僕は慣れてしまっていて、僕自身はハーフ、あなたはハーフですよって言われても、何も感じないですね。

[00:03:44.100] - Noriko  
あ、そうかそうか。じゃあ別に深く考えてない、まあまあ、そうか、みたいな感じですね。

[00:03:49.080] - Kevin  
そうですね。で、もちろん、その、しっかりとした場、例えば、学校で子どもに教えたりとかするときは、あまり「ハーフ」は使わないようにはしていますけど。でも友達と話すときは、つい「僕はハーフだし」とか言ってしまいますね。

[00:04:06.420] - Noriko  
そうですね。多分日本でもそのさっき言った国際児とかダブルっていうのは最近よく聞かれるようになったけれど、でもまだまだハーフという言い方をする人は多いですよ。

[00:04:19.180] - Kevin  
そうですね、まだまだ多いと思いますね。

[00:04:22.740] - Noriko  
じゃ、実際に、ごめんなさい。その、Kevinさんが経験してきた、その、東京での生活の中で、他の方の日本人の、「ハーフ」への反応ってどんな感じでした？なんか特別な経験とかありましたか。

[00:04:39.120] - Kevin  
そうですね。やはりハーフはすごく特別扱いを受ける印象ですね。特別扱いというのは、ま、あの、もちろんポジティブな、いい意味なんですけど、ハーフの人はすごくスポーツができるとか。

[00:04:53.460] - Kevin  
ああ、ありますね、そんなの。

[00:04:55.920] - Noriko  
すごくカッコよくて、もう、めっちゃめっちゃかわいいから子供が欲しいとか。そういう、ま、ステレオタイプ、ポジティブなステレオタイプが多いですね。だから僕もそういうことはよくありましたね。例えば、あの、歌を歌ったら、あ、やっぱ、ハーフだからうまいよね、とか。

[00:05:15.600] - Noriko  
そうなるんですね、なぜかね。

[00:05:15.600] - Kevin  
そうですね。そこがちょっとつながる。

[00:05:19.350] - Noriko  
だから。えー！

[00:05:21.150] - Kevin  
はい、もちろん、ま、仲が良い友達はあるまいいないんですけど、あんまり知らない人だと、すごくそういうステレオタイプが多いです。例えば、あの、箸がありますよね。箸を使えるとき、使えたときとかも、うわ、すごい、箸使えるんだ！みたいな。

[00:05:37.800] - Noriko  
えー、そういうことかあ。

[00:05:40.380] - Kevin  
ハーフなのに使えるんだ、とか言われたり。

[00:05:42.450] - Noriko  
なるほどね、面白いリアクションですね、でも、それはね。逆に普通なのに、たぶん箸を使える人は、たぶん世界中に今たくさんいますけど、逆にびっくりされるんですね、え！上手だねって。

[00:05:55.890] - Kevin  
そうなんですよ。日本人、特に、あの、内と外の考え方がありますよね。自分たちと自分たちじゃない人たち。だからもちろん仲が良い友達は「内」に入れてくれるんですけど、あまり仲が良くない人は、「外」の人として話して、話されることがありますね。

[00:06:18.060] - Noriko  
そういうことから何かびっくりするんでしょうね。その、びっくりすることで、一つちょっと私、今、思ったんですが、Kevinっていう名前じゃないですか、お名前ね。で、今、苗字を言われましたけど、もし一般的にKevinさんのことを知らない日本人が、ケビンという名前を見たときに、じゃあ、話し始めて、日本語がぱっと出てきたときに、すごいみんなびっくりするでしょう、本当は？どうですかね。

[00:06:45.020] - Kevin  
しますね。Kevinだけだったら・・・

[00:06:46.080] - Noriko  
そうそうです。

[00:06:46.710] - Kevin  
うん、ありますね。

[00:06:48.540] - Noriko

ね、日本人じゃないってところ (I wanted to say that many people don't think that Kevin is Japanese)、知らない人たちが見たら、なんでこんなに日本語が上手なのっていうリアクション、今までにたくさんありませんでしたか。

[00:06:58.170] - Kevin

そうですね。ちょっと僕も悪いんですけど、すごく。友達の彼女がいて、その人は私が日本語を話すことを知らなくて、知りませんで、あの、最初に英語で話して、Nice to meet you, how are you?って。

[00:07:17.000] - Noriko

英語で始めたためたんですね。

[00:07:18.220] - Kevin

その後突然、「ああ、そうですか。はい、分かりました」、突然日本語に変えたんです。そしたらすごくびっくりされて。

[00:07:31.250] - Noriko

えーってね。実は、その、あの、「たむら Kevin です」みたいな。

[00:07:34.200] - Kevin

そうそうそう。すごくびっくりされますね。

[00:07:42.070] - Noriko

面白いですね、あの東京には何年くらい住まれていたんですか。

[00:07:46.620] - Kevin

東京には、今は26歳なので、21ぐらいまでいかな。ほとんどもう20年くらいは・・・

[00:07:56.820] - Noriko

ほとんど、じゃ、日本で、東京での生活ですね。

[00:08:00.940] - Kevin

そうです、そうです、そういうことですね。

[00:08:04.620] - Noriko

じゃあ、ちょっと質問が前後するんだけど、ノルウェーに引っ越してから、このノルウェーでの生活はどうですか。やっぱり最初カルチャーショックとか、ありましたか。

[00:08:16.110] - Kevin

やっぱりありましたね。お父さんがノルウェー人だから、ま、そんなに大丈夫だろうと思ってたんですけど、やっぱりすごいですね。あの・・・

[00:08:26.070] - Noriko

すごかったですか。はいはい。

[00:08:29.010] - Kevin

まあまあ。あの、特に、ノルウェー人は、シャイな人が結構多くて、意外とシャイな人が多いんですけど。でもノルウェー人、でも、それでいて堂々としている。

[00:08:41.340] - Noriko  
はい、シャイだけど堂々としてる・・・

[00:08:43.000] - Kevin  
シャイだけど、堂々としてる、結構矛盾しているんです。日本人はシャイだと、「もう私ちょっとダメだから」みたいな。ノルウェー人はシャイだけど、「うん、そうそうそう、俺シャイだから」みたいな。「大丈夫、大丈夫」みたいな。結構個人主義というか。

[00:08:58.090] - Noriko  
はい、そうですね。

[00:08:58.860] - Kevin  
私は私は、あなたはあなた。日本人は結構グループで、ね。

[00:09:04.560] - Noriko  
仲間。はい。

[00:09:05.700] - Kevin  
空気を読むっていう言葉もありますけど、ね。

[00:09:08.520] - Kevin  
空気を読むんですけど、ノルウェー人は結構自信はあって、でも、そうですね。でも、すごく優しいですね。

[00:09:16.860] - Noriko  
その違いですね。

[00:09:17.070] - Kevin  
その違いとか、人間性でいうと、違いとか。食の文化もそうですね。あの、ノルウェー人はパンをひたすら食べますね。

[00:09:28.020] - Noriko  
ああ、パンがメインなんですね。

[00:09:30.480] - Kevin  
パン食べて、あと、パンの上にブラウンチーズをのせるですね。

[00:09:36.480] - Noriko  
知らないなあ。

[00:09:37.110] - Kevin  
はい、ノルウェーにしかないと思うんですけど。すごく甘いキャラメルみたいな味のチーズがあるんですね。

[00:09:44.730] - Noriko  
甘いチーズなんですね。それをちょっと予想できない。

[00:09:48.600] - Kevin

すごく独特な味のチーズがあるんですけど。それが国民食、主食というか。で、みんな毎朝食べるくらいなんですね。はい。

[00:10:00.420] - Noriko

でもそれはもう大丈夫ですか？食べられる？

[00:10:02.940] - Kevin

私はそうです。食べられます。

[00:10:04.140] - Noriko

ああ、よかったよかった。

[00:10:06.570] - Kevin

そうですね。

[00:10:07.380] - Noriko

でも自分でやっぱり日本食を作ったりとか、料理を作ったり、はしますか。

[00:10:13.750] - Kevin

あ、それはやっぱりしますね。

[00:10:14.270] - Noriko

ね、ちょっと恋しくなりますよね。やっぱり日本食。

[00:10:18.040] - Kevin

なります、なります。はい、味噌汁とか、唐揚げとか作りますね。はい。

[00:10:23.670] - Noriko

でも、あのノルウェーって住みやすい国ですか。

[00:10:28.620] - Kevin

あ、そうですね。

[00:10:29.520] - Noriko

よく、なんか、ランキングとか、例えば国民が幸せな国ランキング、とか。やっぱりスカンジナビアの国は、よく上位に上がっているじゃないですか。だからきっといい国なんだろうなっていうイメージはあるんですが、実際にさうどうですか。

[00:10:45.690] - Kevin

いや、国としてはすごくいい国だと思います。はい、発達している。特にお子さんがいる、子ども、がいる方たちは、すごくいいと思いますね。子どもがのびのびと過ごせるような環境が、やっぱり自然がすごくきれいだし、ていうのがありますね。はい、ですね。あと、小さい国だから、なので、なんかすごく、もう国全体が知り合いみたいな、みんな友達みたいな。

[00:11:17.310] - Noriko

いいですね。

[00:11:19.180] - Kevin  
はい、そうそうそう。小さいですね。規模が。

[00:11:21.330] - Noriko  
なんか平和的ですね。

[00:11:23.700] - Kevin  
そうそう平和ですね、やっぱりそこはすごく感じます。

[00:11:26.370] - Noriko  
逆にちょっとここは好きじゃないなっていうところはノルウェーについてありますか。

[00:11:32.880] - Kevin  
一番あんまり好きじゃないのは、やっぱり天気ですね。気候ですね。夏はすごくいいんですけど。

[00:11:40.890] - Noriko  
そうですね。今すごいベストシーズンなんでしょう。

[00:11:43.210] - Kevin  
今はベストですね。今は、暑すぎないで、涼しくて。日本の軽井沢みたいな。

[00:11:49.830] - Noriko  
あ、そうか、イメージはそんな感じなんですね。

[00:11:53.820] - Kevin  
そうなんですね。はい。

[00:11:56.230] - Noriko  
緑が濃くてね、緑がきれいで。

[00:11:58.500] - Kevin  
緑もあるし、海もあるし、なんですけど、でも冬はすごく寒くて、やっぱり天気が悪いのと、あと暗いんですよね。Norwayって。

[00:12:08.830] - Noriko  
そこを今ちょっと聞こうと思ってました。あの、夏は、ずっと、やっぱり明るいんですよね。今何時くらいまで明るいんですか、外が。

[00:12:16.540] - Kevin  
今は 10 時半くらいまで。夜の 10 時くらいで、明るいですね。

[00:12:21.280] - Noriko  
冬になると逆に・・・

[00:12:22.360] - Kevin  
冬になると 1 番短いときは 3 時、午後 3 時くらいに、もう暗くなって、という感じですね。

[00:12:32.220] - Noriko



ま、近い、ベルファストと近いですね。私、北アイルランドなんですけど、冬は、4時半くらいですね。4時半くらいから、あの本当に暗くなりますね。

[00:12:38.320] - Kevin

そうなんですね。

[00:12:41.620] - Noriko

でももうずっと冬。冬は落ち込みますよね。

[00:12:45.970] - Kevin

そうなんですよ。気持ち、ね、あの、メンタルがあんまり安定しないというか。ありますね。

[00:12:51.280] - Noriko

じゃ、今この夏のベストなとき、ノルウェーの人たちはどんなことをするんですか。この夏の過ごし方というか、結構アクティブなんですか。

[00:13:03.470] - Kevin

あ、そうですね。ノルウェー人は天気がいいと、もう朝起きて、もう外を見て天気が良かったら、もうすぐに、もう着替えて、行くぞ、って、外に出て。

[00:13:13.750] - Noriko

今日は出かける日だ。

[00:13:15.850] - Kevin

そう、太陽があるぞって言って、もう、すぐ行くなって言って。

[00:13:19.030] - Noriko

あ、なんかわかる気がする。

[00:13:22.000] - Noriko

ノルウェー人は、Hytta(ヒッタ)といって、あの、各家庭が森に別荘、家があるんです。小さいログハウスみたいな。

[00:13:29.680] - Noriko

あ、聞いたことある。うんうん。

[00:13:32.710] - Kevin

はい。そこに1カ月ぐらい行って、自然の中でもWiFiもない中で。

[00:13:38.550] - Noriko

え、本当に！

[00:13:38.550] - Kevin

そうです、そうです。

[00:13:40.130] - Noriko

お、それはちょっとすごいな。

[00:13:40.130] - Kevin

自然の中で、ご飯を食べて、もう、ハイキングしたりとか。自然の中で過ごすというのがノルウェー人の夏ですね。

[00:13:49.780] - Noriko

あ、そうなんだ。じゃ、そういう別荘に行って、本当にゆっくり自然を楽しむって感じなんですね。

[00:13:57.070] - Kevin

そうですね。それがノルウェー人ですね。

[00:14:00.580] - Noriko

ノルウェーの料理は、さっき言ったあのパン以外には、どんな料理が多いんですか。魚は？

[00:14:08.200] - Kevin

魚は、ま、やっぱりサーモンですね。

[00:14:10.890] - Noriko

あ、やっぱり、そうですね。

[00:14:13.870] - Kevin

はい、サーモン、やっぱり焼き魚にしたりとか、パスタに混ぜたりとかして食べたりしてますね。あとは羊の肉は、食べますね。

[00:14:23.560] - Noriko

おいしそうですね。あの、北アイルランドも羊の肉は本当においしいです。

[00:14:28.720] - Kevin

あ、そうなんですね。

[00:14:30.070] - Noriko

はい、好きですね、わたしは。でも日本ではほんとに食べたことがなかったですね。

[00:14:34.350] - Kevin

うんうん僕もなかったです。

[00:14:34.350] - Noriko

ね、珍しいですよ、日本では羊の肉。

[00:14:37.990] - Kevin

日本で、そうですね、北海道くらいですね。

[00:14:40.800] - Noriko

そう、そうそう。そうです、たぶん、うんうん。

[00:14:40.800] - Kevin

そうですね。だから、ま、日本人はたぶんあまり、その、毛嫌いする人が多いかもしれませんが、でも、おいしいですよ。

[00:14:53.590] - Noriko

将来的な計画としては、ケビン先生はこのままノルウェーにずっと残る予定なんですか。それとも、コロナの状況が落ち着いたら、やっぱり東京に帰りたい。

[00:15:07.160] - Kevin

いや、これ実はなんですけど、10月に実は一旦帰ろうと想着いて。

[00:15:11.440] - Noriko

あ、もうすぐじゃない、10月、今年ね。おー、あ、すごい。

[00:15:12.550] - Kevin

そうなんですよ。ちょっとだけなんですけど、ま、一旦帰って、これからどうしようか、ノルウェーに戻るか、まだわからないんですけど。

[00:15:22.000] - Noriko

うんうん。え？それは、あの、なに、片道切符みたいな感じですか。片道チケットみたいな？

[00:15:28.090] - Kevin

とりあえず片道ですね、でも、あの、そうです。また戻りたくなったら戻るけど、わからないっていう感じですね。

[00:15:35.970] - Noriko

そうなんですか。あの、じゃあ、これはさっきのハーフとの話につながるんですけど、じゃあ、その、ずっと、長い間日本に住んでいたんで、ケビン先生にとっては、もうやっぱり自分はノルウェーに住むより、日本で住みたいっていうか、もう日本が好きっていう気持ちのほうが強いんですかね。

[00:16:01.420] - Kevin

えっと、まあそれもまだ分からないですね。どっちもどっちですね。でももちろん日本にいたときに自分の家だなという感じがありますね。でもやっぱり、日本で自分の家があって。

[00:16:12.520] - Noriko

なるほど。なんか、自分が故郷に帰ってきたみたいな感じはあるっていうことですね。

[00:16:13.120] - Kevin

うんうんうん、故郷だなという感じはありますね。でもやっぱり日本にずっと住んでいるので、日本に慣れているので、海外に行ったほうが刺激がありますよね。

[00:16:13.120] - Noriko

確かに。

[00:16:13.120] - Kevin

楽しかったりするので、両方の良さがあると思いますね。

[00:16:34.810] - Noriko

あ、そうか、なるほどね、面白いですね。

[00:16:37.390] - Kevin

そうですね。

[00:16:38.830] - Noriko

でもその、アイデンティティっていうところでいえば、Kevin 先生の考えはどうなんですか。やっぱり日本人って答えるんですか、それとも、そこってすごく興味があるところなんですよ。

[00:16:55.090] - Kevin

はいはいはい、そうですね。まあこれちょっと変なんですけど、日本、今ノルウェーにいるときは、すごく日本人だと思うんです。

[00:17:03.680] - Noriko

ああ、そうか、はい。

[00:17:06.310] - Kevin

もちろんみんな日本のことを聞かれるし、日本の食べ物どうなんだって。もちろん先生もしてるので。日本にいるときはノルウェー人なのかなと、ちょっと思うときがありますね。いる場所によって違いますね。

[00:17:21.280] - Noriko

なるほどね。やっぱり、この、そのさっき言ったハーフとかダブルの人たちは、そこなのかな？ やっぱり両方の面があるということなのかな。

[00:17:33.220] - Kevin

そうですね。いろんな人がいると思うんですけど、もちろん。「僕には、別に国籍とか関係ない」

[00:17:38.170] - Noriko

そう、そういう人もいますよね。

[00:17:40.510] - Kevin

私は世界人だ、みたいなね。

[00:17:42.460] - Noriko

そうそうそう。

[00:17:43.810] - Kevin

もちろんそういう人もいると思うし、海外に行ったことないし、別に何も意識したこともない、日本人ですと言う人もいるかもしれないし。

[00:17:52.510] - Noriko

面白いですよ。

[00:17:53.540] - Kevin

ですね、いろんな人がいる。

[00:17:55.010] - Noriko

私も外国に住んでいるので、このアイデンティティっていうことについて、すごく興味があります。例えば、私は、でもやっぱりまだ日本人って思うんですけど、私の夫はペルー人なんですよ。

[00:18:08.540] - Kevin

あ、そうなんですな。

[00:18:10.390] - Noriko

で、彼は実はペルーを出て 20 年以上なんですな。もう長く日本とイギリスに住んでいて、実はもう何か自分がペルー人だと言えないって言うんですな。

[00:18:24.700] - Noriko

で、ま、実質、イギリスの市民権も取ったので、イギリスのパスポートも持っているんですけど、言葉は英語も話せるし、日本語も話せるし、で、長い間ペルーに帰っていないから故郷に帰ったら、家族だけ。でも街の様子はもう全然違うって言って、なんか、そこ、なんかちょっと本当に考え方が変わってきたって言うんですな。だからほんとにアイデンティティっていうこと面白いですな。人によって全然違います。経験の中で変わっていくというか。

[00:18:53.080] - Kevin

そうですね。面白いですね。うん。

[00:18:58.000] - Noriko

そうそうそう、え、じゃ、英語の勉強についてちょっと話したいんですけど。Kevin 先生のポッドキャストの中で、Kevin 先生の顔で、英語ができないことがプレッシャーだったみたいなことを話されていて、すごく面白いと思ったんですが、やっぱり、え、待って、じゃ、英語は何歳のときに、どうやって勉強を始めたんですか。

[00:19:23.800] - Kevin

えっと、ま、英語はもともとほとんどできなくて、あの、中学校ぐらい、もちろん皆さん、日本人の英語の教育の始まり、英語のクラスと同じタイミングですよ。

[00:19:35.440] - Noriko

中学校、うんうんうん。

[00:19:37.790] - Noriko

中学校ですよな。ま、13 歳、14 歳、そこから始めて、本当に自分から勉強したいと思って勉強し始めたのは、大学からですよな。18 歳、19 歳。そこでちょっと。

[00:19:48.370] - Noriko

プレッシャーだったっていうのは、周りの人が、え？英語を話せないの？っていう感じで言われたってことなんですか。うんうん。

[00:20:01.120] - Kevin

それも何回かありましたな。その顔で話せないの？みたいな。

[00:20:06.720] - Noriko

結構言いますな。うんうん、そっか……

[00:20:11.310] - Kevin

たぶん面白く言いたかった。

[00:20:12.990] - Noriko

冗談っぽく言った

[00:20:14.130] - Kevin

そう、冗談で言ったんだと思うんですけど、その顔をして英語も話せないの、みたいな。

[00:20:18.770] - Noriko

それはやっぱり自分としてはショックだったのかな。

[00:20:23.560] - Kevin

そうですね。なんか自分に自信を持ってないというか、なんかダメなのかなと思って、それもありましたし。ま、高校から、特に高校生くらいから、英語を、アメリカの音楽とかアメリカのドラマとか、すごく人気になり始める。それも相まって、これはちゃんとやらなきゃダメだなと思って、大学から勉強始めましたね、しっかりと。

[00:20:51.240] - Noriko

あ、そっかそっか。で、その時は、それこそ、その歌だったりドラマだったり映画だったり勉強した、んですよ。

[00:20:58.740] - Kevin

そうですね。Prison Break(プリズンブレイク)をすごく見て・・・

[00:21:02.850] - Noriko

懐かしい。

[00:21:03.870] - Kevin

Prison Break、懐かしいドラマ。

[00:21:05.550] - Noriko

でもやっぱりドラマはいいですよ。たくさん・・・

[00:21:07.690] - Kevin

ドラマは、もうすごくいいですね。もう、1つ2つで、僕絶対に1つのノートしか使わないんですけど、言葉を勉強するとき。もちろん最初はいろんな本を使うんですけど、少しできてきたら、もう1つのノートだけで、そこになんか1シリーズ、なんか1つの言葉が出てきたらそれを、その言葉を書いて。え、なんか、その感想とかも書きちゃうんですね。

[00:21:31.000] - Noriko

なるほど

[00:21:31.900] - Kevin

これ怖いと思った、とか。なんか。

[00:21:36.370] - Noriko

すべてがそこに詰まっているんですね。その便利なフレーズから、自分の思った言葉で。

[00:21:42.160] - Kevin

そうですね、自分の経験とか見たこと、たとえば、何か振られたり、彼女に、女の子にフラれたりしたら、フラれちゃった、みたいな、悲しかった、みたいな。なんか特にそういう経験を書いていますね、そうすると忘れないんです。

[00:21:54.670] - Noriko

それは、良い方法ですね。たぶん日本語の勉強も、たぶん良い方法ですね、その方法は。

[00:22:00.070] - Kevin

もちろんそうと思います。

[00:22:00.070] - Noriko

とにかくつぶやく、自分でね、書いてみる。

[00:22:04.710] - Kevin

で、は、これはおすすめしないですよ。独り言。

[00:22:06.490] - Noriko

独り言、うんうんうん。

[00:22:09.070] - Kevin

独り言をするようになったら、すごく話す、スピーキングはすごく上達しますね。あの、ま、道とかで一人でずっと話している人、ちょっと怖いんですけど。

[00:22:18.720] - Noriko

いや、でも私もそう思います。なんかつぶやくんですよね。

[00:22:22.510] - Kevin

そうです、そうです、そうです。

[00:22:23.260] - Noriko

そうそうそう。簡単な、例えばさ、お腹すいた、でもいいので、それを日本語で言ってみるのもいい。

[00:22:30.670] - Kevin

本当に自然に思ったことを言うっていうのってが一番覚える。

[00:22:34.330] - Noriko

そうです。そうです。

[00:22:36.140] - Noriko

じゃあ最後の質問なんですけど、ギターと歌ですね。あの、いつ頃からされているんですか。

[00:22:45.610] - Kevin

えっと、歌は小さい頃からずっと、あの、お母さん、お父さんに、もううるさいって言われるまで歌っていたんですけど、ギターは大学から始めましたね。

[00:22:59.440] - Noriko

そうですか。それで、あの、さっきもちょっと話しましたがけれども、ポッドキャストの中で、その、替え歌のような歌詞をね、ちょっとアレンジして、自分らしく、アレンジしてアレンジして歌っているのがすごくユニークだと思うんですね。そこで、とんでもない、ちょっとリクエストだと思うんですけども、このポッドキャストの中で、何か少しだけ歌っていただけませんか。

[00:23:27.310] - Kevin

はい。

[00:23:30.160] - Noriko

ちょっと、本当に、初、初の試みで、ちょっと厚かましいリクエストなんですが、

[00:23:35.050] - Kevin

もしよろしければ、わかりました、ちょっとやってみますね。

[00:23:37.780] - Noriko

ありがとうございます、ケビン先生！

[00:23:41.230] - Kevin

即興でもいいですか。即興で。

[00:23:42.880] - Noriko

はい、ぜんぜん。

[00:23:45.540] - Kevin

いってみますね、はい、わかりました。

[00:23:56.320] - Noriko

お願いします。

[00:23:58.510] - Kevin

「真夏の果実」という曲があるんですけど。

[00:24:00.880] - Noriko

知ってます。はい。

[00:24:02.560] - Kevin

はい、日本の曲なんですけど、それで、ちょっと、それでやってみます。

[00:24:03.700] - Noriko

はい。いいですよ。じゃあ、あのいつでも始めてください。

[00:24:13.070] - Kevin

がんばります。

[00:24:18.250] - Kevin

ポッドキャストに出させてくれて、ありがとうございます。楽しい時間過ごさせてくれてありがとう。

[00:24:48.050] - Noriko



ありがとうございます。本当に突然だったけどありがとうございます。リスナーの皆さんぜひ本当に Kevin 先生のポッドキャストを、もっともっというんな歌が聞けると思うので、聞いてみてください。たぶん、あの、やっぱり、素敵な声ですよ。よく言われませんか。

[00:25:04.200] - Kevin

いやいやいや、ま、そうですね、声がなんか落ち着くと言われますね。

[00:25:07.200] - Noriko

そう、本当に。たぶん、そこからあの Kevinvin Sleepyって出てくるんですよ。その理由ですか、その落ち着く感じ。

[00:25:13.950] - Kevin

ま、歌もそうですけど、声も、あの、なんか、寝る前に、もう子守歌でいいんで、そんな頑張ってる YouTube とか頑張ってみよう、とかじゃなくて。

[00:25:26.820] - Noriko

じゃなくてね。

[00:25:27.630] - Kevin

聴いているうちに寝ちゃうぐらいでいいんで、聞いてくださいという形で始めました。

[00:25:31.050] - Noriko

そうそうそう。あ、いや、でも声は本当に心地いいですね。いや、それってすごく大切だと思います、ポッドキャストで。素敵な声でした。じゃ、本当に最後になったんですけど、リスナーさんの皆さんに励ましのメッセージをお願いします。

[00:25:51.390] - Kevin

励ましのメッセージ。

[00:25:52.420] - Noriko

はい。

[00:25:52.420] - Kevin

あ、そうですね。僕、あの、3 言語を自分で勉強したんですけど、スペイン語と英語とノルウェー語、勉強したんですけど、僕は頑張ってる勉強したっていう、まったくそういう考えはなくて、思いもなくて、あの、楽しくてやってたらそうなっちゃった、という形なんで、本当に、独り言でもいいし、Prison Breakを見るでもいいし、もう自分が好きなことをやっていったら、だんだん自分で興味を持つんで。それが一番大事。楽しく勉強することが一番大事なで、これしなきゃいけないとか、1 個もないんで、言葉には。もちろんテストとかだったら別だけど。だから楽しい趣味の一つとして楽しく勉強してほしいと思いますね。

[00:26:43.620] - Noriko

ありがとうございます、ホントですよ。楽しくなきゃ。

[00:26:48.120] - Kevin

しょうがないので。自分が楽しかったら、これが正解なんで。

[00:26:52.680] - Noriko

ありがとうございます、ケビン先生、こちらこそありがとうございます。

[00:26:56.700] - Noriko

ちなみに私のリスナーさんがケビン先生のオンラインレッスンを受けたいと思ったら、どうやってコンタクトすれば一番いいですか。ホームページ？

[00:27:08.490] - Kevin

そうですね。ホームページもありますし、メールで言っていただいた方がいいかなと思います。ホームページの方にはノルウェー語がちょっと書いてありますので。

[00:27:18.270] - Noriko

分かりました。え、じゃ、もし、私の、あの、そうですね。もしこれが公開されるときに、先生のウェブページ、ウェブページにいけばEメールアドレスが書いてあるんですよね。

[00:27:32.160] - Kevin

そう。ウェブページの下にコンタクトフォームがあって、そこに書けば書いていただければ大丈夫と思います。

[00:27:37.710] - Noriko

はい、わかりました。じゃあ私それを宣伝します。はい。

[00:27:41.070] - Kevin

すみません、ありがとうございます。

[00:27:42.900] - Noriko

いえいえ、実は最初に話した先生のことを私に教えてくれた生徒さんは、ケビン先生と授業をしたいと本当に言っていました。

[00:27:51.120] - Kevin

あ、そうですね。ありがとうございます、うれしいです。

[00:27:53.640] - Noriko

きっとそんな方、たくさん、今の声を聞いて、たくさんファンを掴んだと思います。

[00:27:59.520] - Kevin

いや、嬉しいです。本当にこんな機会をいただいて本当にありがとうございます。

[00:28:02.730] - Noriko

いやいや。そんなことないです。

[00:28:02.730] - Kevin

楽しかったです。

[00:28:03.960] - Noriko

私も結構面白い話になりました。今までにない話をしたと思うので。ありがとうございました。

[00:28:09.990] - Kevin

こちらこそありがとうございます。

[00:28:12.180] - Noriko

ケビン先生、日本に帰って、日本からのいろいろな面白いエピソードをどんどん上げて行って欲しいと思います。

[00:28:19.950] - Kevin

どんどんやっています。

[00:28:20.940] - Noriko

今日はありがとうございました。

[00:28:22.950] - Kevin

ありがとうございました。

[00:28:25.140] - Noriko

失礼します。

[00:28:25.140] - Kevin

失礼します。